

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成29年度採択分）  
「日本から発信するアジアの環境変異原・発がん研究」  
（課題番号：17HP2002）

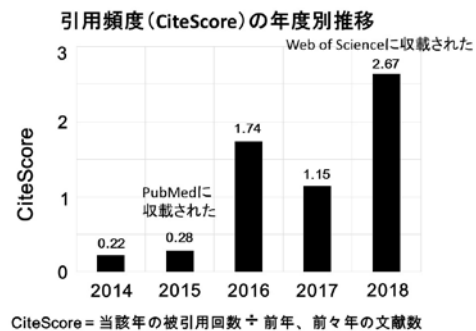
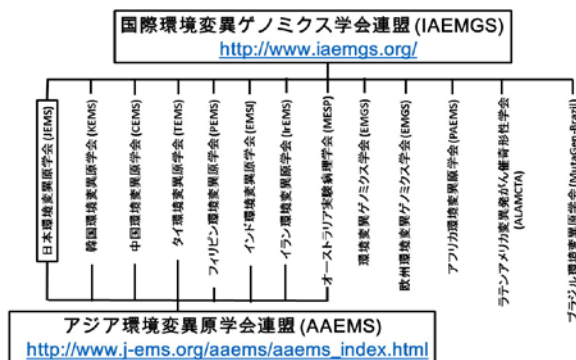
学術団体名：日本環境変異原学会  
学術刊行物の名称：Genes and Environment  
事業期間：平成29（2017）年度～令和3（2021）年度

## 1 取組の概要

・取組内容の特徴と目的、意義及び方法：近年、産業の発達、経済の発展に伴い、アジア諸国において環境汚染、食品汚染の問題が深刻化している。汚染物質の中でも、DNAと反応して突然変異を起こす発がん物質（変異原性発がん物質）の作用には閾値が無いとされており、その検出、規制、予防、メカニズムに関する研究を我が国そしてアジア諸国で振興し、その成果を欧米等に発信することは喫緊の課題である。日本環境変異原学会は、2005年にアジア環境変異原学会連盟（AAEMS）を結成し（下図参照）、和文の学会誌を全面英文化して誌名をGenes and Environment (<https://genesenvironment.biomedcentral.com/>) とし、これを2015年にオープン・アクセス電子ジャーナルとして発刊して、我が国からアジアにおける環境変異原、発がん研究を発信する体制を整えて来た。

・応募時に設定した取組の目標・評価指標：

- ①2017年にWeb of Scienceへの採録を申請し、採択2年後のImpact Factor2.0を目指す。
- ②AAEMS加盟国から投稿される論文の掲載料を日本環境変異原学会が全額補助し、国際環境変異原学会（2017年、韓国）等でGenes and Environmentのブース展示を行い、アジアからの投稿を促進する。
- ③医薬品を含む化学物質の規制等に関する特集を組み、アジア諸国における化学物質の規制に関する研究（レギュラトリーサイエンス）の促進を促す。



## 目標の達成状況

・現在までの目標の達成状況：

- ① Genes and Environmentは、2018年11月にWeb of Science Core Collection 中の ESCI (Emerging Sources Citation Index) に掲載され、さらに2019年1月にSCIE (Science Citation Index Expanded) に昇格掲載され、2020年からImpact Factorが付与されることになった。同誌は継続して年間25報以上出版されており、2018年のScopusのCiteScoreが2.67に（上図参照）、ResearchGateのRG Journal Impactも2.33に上昇している。
- ② AAEMS加盟国からの投稿論文については、掲載料を日本環境変異原学会が全額補助する旨を、2017年にホームページやメーリングリスト等でアナウンスした。2017年の韓国における国際環境変異原学会などでGenes and Environmentの周知を図った。2017年以降、AAEMS加盟国および他のアジア諸国から16報が投稿され、うち8報がGenes and Environmentに出版された。
- ③ 2019年6月に、Genes and EnvironmentのホームページにGenotoxicity test（遺伝毒性試験）の特集号（article collection）を掲載した。

・今後の計画

- ① 継続的な出版数の確保と高いImpact Factorの維持を目指す。
- ② 海外（特にアジア）からの投稿数を増やし、アジアの環境変異、発がん研究に関する発信力を強化し、AAEMSのオフィシャル・ジャーナルとなることを目指す。